

FAPJ/FCSJ107Sシリーズ(進PIV・少回線タイプ) 遮断スイッチ設定表／接点、ジャンパーピン構成図

TM10851<0>

新規 年 月 日
更新 年 月 日
発行社名：
部所：
管理番号：

承認	検証	担当

件名： _____

型式： _____
(例：FCSJ107S-R-20LT)

【はじめに】

本資料は、連動先の遮断スイッチ設定確認とジャンパーピンの設定を行うための準備として記入するものです。現場の仕様に準じて本資料に記載してください。また、設定後は、本記録用紙を大切に保管してください。リニューアルや基板交換時に設定した内容の確認が必要となります。なお、本受信機を使用するにはジャンパーピンの設定以外にデータベースの設定も必要です。(TM10850「FAPJ/FCSJ107S(進PIV・少回線タイプ)機能設定表」を参照)

【ジャンパー設定の記載方法】

(例) JTEL の設定：1-2間に設定の場合



注) JTEL、JPKのみ出荷時より設定済みのため○が付いていますが、変更する場合は×を付ける等の対応をしてください。

【移報接点の構成】

- 移報接点の標準装備はF1~F10 (PSU基板)で、F11~F30はOP基板が必要です。
- F5はトランスファ接点、F1~F4は独立したコモンメーク接点、F6~F30は5接点で1コモンメーク接点です。
- ステータス連動で「異常代表」または「主電源断」にした場合、正常時にリレーがオン状態となり、C-A端子間が導通します。異常時にオン信号が必要な場合は、F5 (C接点)のC-B端子間を使用してください。

【地区音響の使用法】

- ダイオード付ベルを使用する場合(地区音響回線の断線・短絡監視を行う場合)、BKC-BKF端子を使用して一斉鳴動としてください。
- 一般型ベルで区分鳴動とする場合、F接点を使用し地区音響有電圧移報用のジャンパーピンJPF1~JPF5、地区音響一斉鳴動用のジャンパーピンJPA1~JPA5を設定してください。F6~F30を地区音響(有電圧)として使えます(F1~F5は無電圧限定)。地区音響として使う場合はF6~使用できますが、F11~は前詰めで使ってください。

注) F11~F15が無電圧a接点でF16~F20を地区音響(有電圧)のような使い方はできません。

- 一般型ベルを接続する場合は、ジャンパーピン(JPK)を取り外し、『データベース設定説明書』を参照の上、「06空き回線」で地区音響を「空き」に設定してください。
- 本機の地区音響回路は、従来の進Pシリーズ同様、鳴動時マイナスコモン(BKC)です。監視時は極性反転して断線・短絡監視を行うため、プラスコモン(BKC)です。

【相互電話の使用法】

- 相互電話を行う場合は、F5のトランスファ接点を使用してください。

【諸表示(LX)の電源について】

- 諸表示(LX)を受信機電源(I±)から供給する場合、「JPI-」を設定することで、I-とLXCの渡り配線は不要になります。

1. 遮断スイッチ設定表 (機能設定表TM10850の2項オプションスイッチの設定と6項、7項が移報出力回線設定の遮断スイッチ内容と同じものです)

スイッチ名称(標準)	スイッチ名称(変更時)	遮断する接点
非常放送遮断		
火災代表遮断		F接点(FA-FC)※固定
消火栓遮断		
防排煙遮断		

スイッチ名称(標準)	用途	スイッチ名称(変更時)	遮断する接点
OP1	遮断 / ノンロック / ロック		
OP2	遮断 / ノンロック / ロック		
OP3	遮断 / ノンロック / ロック		
OP4	遮断 / ノンロック / ロック		

2. 接点、ジャンパーピン構成図

- 地区音響回線の断線・短絡監視 : JPK短絡(出荷時は短絡)
- 地区音響出力階直上階鳴動 : JPF1、JPA1短絡(F6~10を使用する場合)
- 相互電話 : JT1、JTEL(2-3間)短絡(出荷時は1-2間短絡:相互電話無しモード)
- 諸表示(LX)電源用 : JPI-短絡(受信機電源を使用する場合)
- 地区音響出力階直上階鳴動 : JPF2~5、JPA2~5短絡(F11~F30を使用する場合)
- 基板内コモン共通化(無電圧) : JPF3~5(F11~F30を使用する場合) 注) JPF2は使用不可

